

## 4. 参加者からの質問と回答

### (ラストホール)

参加者からの質問・意見	議会の回答
<p>都市計画道路(山田-伊丹線)について、9月議会に測量調査費が上程されることが想定されるが、この点に関して伺いたい。</p>	<p>当該道路は昭和46年に都市計画道路として認定された。 今年の9月議会では、塚口-長尾線(南北の道路)の調査費は上程予定であるが、山田-伊丹線(東西の道路)については予定されていない。議会としては、当局より議案として上程されてから議論することになる。</p>
<p>市道「山田-伊丹線」は70年前の都市計画で決定されたが、住民は都市計画道路の存在を知らないまま住宅を分譲された。建替えの時期になって初めてその存在を知り、大騒ぎとなっている。 泉町自治会では、平成25年から当該道路の都市計画について市と白紙状態から話し合いを続けてきたが、平成27年に突然「重要路線」と言われ、測量調査費について予算計上の話が出てきた。 これに関し、市は当事者である泉町自治会への住民説明を行わないままに、範囲を広げてまちづくり協議会で住民説明を行った。まずは、当事者である自治会や地域社会に対して十分な住民説明を行うべきではないか。 当該案件が議会上程された場合、地域へ十分な説明責任が果たされるようお願いしたい。</p>	<p>議会として、住民の意見を踏まえて取り組んでいく。</p>
<p>予算と実績の差額をどのように処理しているのか？ プラスの場合とマイナスの場合それぞれについて。</p>	<p>マイナス(予算が不足)の場合、補正予算において調整する。 プラス(予算が余る)の場合、財政調整基金への積立などを行う。継続的な事業の場合は、繰越明許として次年度に繰り越すこともある。</p>
<p>セクシャルマイノリティに対する配慮(パートナーシップ制度等)について、伊丹市議会においてどのような議論がなされているのか。 当事者として、パートナーシップ制度の1日も早い確立を望む。</p>	<p>議会においては、一般質問等により取り上げている。 性的マイノリティに対して、まだまだ社会的認知度が不足していることについて、行政や教育機関がどのような役割を果たしていくべきかについて議論がなされている。 これまでは、教育の現場で取り扱うにも教材の不足等により困難な状況にあった。 しかし、昨年3月、市民より提出された「性的少数者(セクシャルマイノリティ)の人権を守るための請願書」を議会で採択し、市長や教育長に対策を約束して頂いている。 対策の進捗については、議会としてチェックしていかねければならないと考えている。 パートナーシップ制度については、宝塚市などで制定されているが、伊丹市ではまだその議論に至っていない。</p>

### (ことば蔵)

参加者からの質問・意見	議会の回答
<p>難聴者は議会傍聴できるのか。 その際、できれば議員の声を直接聞きたいので、磁気テープと要約筆記があればいいのだが。</p>	<p>議会を傍聴するとき、事前に難聴者であることを申し出ていただければ、対応する。 磁気テープと要約筆記の件は参考にさせていただきたい。</p>